

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)職員用

公表:令和 6年 1月 3日

事業所名 あ・りとる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		パーテーションや個室を活用して、空間を広く活用できるよう工夫しています。また、近所の公園へ行くなど地域資源を活用しています。また、2時間おきの消毒清掃を徹底し、清潔に努めるようにしています。	バリアフリー化については、玄関の段差がありますが、それが原因で利用できない方が出ないよう、必要に応じて対応していきたいと考えています。
	2	職員の配置数は適切である	7			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		職員が意見を言いやすいようにスタッフ会議等で、話の出来る機会を設けています。必要に応じて定期会議以外にも話し合う時間を作り、迅速に対応出来るようにしています。自己評価に関しては、HPで公開しています。また、書面でも保護者の方や職員にも配布させて頂きます。職員の研修は、外部研修に参加できる機会を提供し、また事例発表を兼ねて勉強会を開催しました。	第三者委員会は開いておりません。今後事業所を拡大することがあれば、考えていきたいと思えます。コロナも落ち着き、外部研修の開催も増え、参加を促すことでスタッフの資質向上に努めて参りたいと思っています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		子供本人の成長に気づく視点を大事にし、スタッフ全員でこまめに報告や連絡を通して、支援に取り組ませて頂いております。子供たち一人一人の思いを大事にしながら、集団活動も取り入れ、それぞれのペースに合わせた支援を心がけています。アセスメントシートを活用し、今までの成長が新しいスタッフにも分かるように工夫したりしています。スタッフから「はい」の回答が多く、意識の高さを感じました。今後ますます支援への意識を高めながら取り組んでいけるよう尽力していきたいと思っています。	新しいスタッフが増えたこともあり、改めて事業所の想い、方針を伝えていき、統一した支援が出来ることが大切だと思っています。子供が主体の療育を心がけ子供達が楽しんで通うことが出来る事業所を目指して、より一層精進していきたいと思っています。計画やプログラム等も、スタッフ全員が意見を言いやすい環境を作り、何が大切か、何が出来るかを常に考え、取り組んでいきたいと思っています。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		サービス担当者会議に関しては、その都度参加させて頂いています。近所の保育園や小学生の子供達と公園で一緒に遊ぶ機会があったり、近所の方のペット(犬や、ヤギ)を通して交流が生まれたりしています。また、ハロウィンや避難訓練(12月予定)を地域開放型で行い、地域の方々にも参加していただくことで交流の場を設けています。ハロウィンでは、大人数の地域の小学生達が遊びに来てくれ、室内、外で一緒に遊ぶことができました。	医療的ケアが必要なお子さんに対する支援に関しては現時点では十分な体制が整っているとは言えません。服薬が必要なお子さんや、心身に配慮が必要なお子さんに対して医療機関や保護者の方、先生の方々や連絡を密にして体調管理に努めさせて頂いております。自立支援協議会には参加していませんが、福井市障害児支援事業所連絡会とつながり、その会の代表者が自立支援協議会に参加しているため、情報共有ができるように今後も努めていきたいと考えています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	3		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	2		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7			
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に運営規定等の要点をご説明させて頂いております。相談に関しては、年2回の個別懇談や連絡帳、お迎え時等に日々の様子をお伝えしたり、相談等に対してアドバイスを行っております。また、平日午前中に必要に応じて相談できる環境を整えております。今年度も数名の方のご利用がありました。事業所の様子をお伝えするために、毎月「あ・り」と通信を発行しています。個人情報に関して取り扱いを慎重にするとともに、写真などの掲示については事前に保護者の方に確認をとってから掲示するようにしています。地域の方々に関しては、ハロウィンや勉強会、避難訓練(12月予定)にお誘いし、開放日を設けて交流をしています。たくさんの方々の地域の方々からは好評を得ています。また、保護者の方からも「知らない人達がたくさん来て大丈夫だったんです」と本人の成長が見られたり、子供達も自然に受け入れている様子が見られました。大きな成果を感じ、今後も交流していきます。	保護者会は設立していません。要望があれば設立を考えたと思いますが、保護者の方の負担を考えると現実的ではないと考えています。先日、お迎えでたまたま同じ時間に会った保護者さん同士でお話が盛り上がり上がっていることがありました。保護者さん同士ならではの情報の行き来や分かり合える様子が伺えてとても良い時間だと思いました。交流の何か良い方法はないか、考えてみたいと思いました。また、卒業後の先輩達より、相談を受けることもあり、卒業した後(就労など)も交流が続いていることもあります。将来を見据えての相談事など、今後利用の保護者の方が卒業後の保護者さんへ質問してみるということも良いなあと考えています。また、皆さんからの案も寄せてもらいながら形を作っていきたいです。お力をお貸しください。地域の方々との交流はハロウィンや避難訓練で事業所を開放しました。地域に開かれた事業所を今後も目指していきたいです。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7			

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		12/28に避難訓練をしました。細かなチェックリストを作り、必要な支援が把握できるよう行いたいと考えています。服薬は保護者の方と連携をとり、職員間でも報告を徹底し、メモを活用し飲み忘れなどないよう気を付けています。ヒヤリハットはどんな細かいことでも報告、記録し、周知するようにして再発防止に努めています。虐待防止研修へは外部の研修に参加したり事業所内でも勉強会を行う予定をしています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7			

マニュアルを見直し、改めて周知に努めなくてはならないと思っています。子供達に対しても実際に訓練で体験することによって、必要な支援を再確認することが重要だと考えています。移転して、避難場所も湊小学校になったので、子供達とも実際に歩いてみて、場所を知ってもらう必要があると考えています。スタッフからも「救出等の訓練のイメージができない」という声も聞かれ、12月28日の避難訓練で、実際にやってみたり、消防署の方に質問をしたり相談したりしてイメージをもちながら行動できるようにしていきたいと考えています。また、火災時には近所の方へ消火器を借りることが大切な初期消火になるので、日頃から近所の方々と良好な関係を築いていきたいと思います。





